

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名 グループホーム よしいり川

日付 平成18年11月8日
 特定非営利活動法人
評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験9年
 評価調査員 在宅介護経験18年

自主評価結果を見る (まだリンク先はありません)

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

外部評価の結果

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

リビングルームには、割れかえるような笑い声やお喋りは聞かれぬ。見慣れない人の訪問に激しく吠えるお利口さんのセラピー犬の声だけが響いている。ホームの窓やドアは開け放たれ、花の香りが心地良い。「穏やかにゆったりとした日々」を願うホームの人々の顔も安らいている。静かなのは、環境のせいばかりではない。

この「心地良さ」を醸し出す要因の一つに職員の「ざりざりまで待つ姿勢」「出来る限り手出ししない方針」にあるのではないかと考えた。他のホームでよく聞かれるさりげない誘いかけよりも、利用者本人の自発的動きの方に私の目が止まった。もちろん認知症の症状の程度により、異なってくる事で一概には言えないが、施設長の専門的な指導の下での認知症ケアの学習の成果ではないだろうか。「一人ひとりの自立を願い意志を尊重している」ということと「したい放題のまま」は見えていて紙一重だが、雲泥の差と言える。

独り暮らしで認知症を患い犬が飼えないという人が「愛犬と一緒に花作りもしたい」という願いを叶えて、このホームで暮らした。利用者の「したいこと」を可能な限り実現させたいと言う職員の思いは熱い。飼いが居なくなったこの犬は、今、他の利用者の心の癒しとして、また、番犬として存在感がある。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

このホームと壁続きの三世交代センター“むつみの会”の地域づくりが、今以上に活動的になれば、ホームの利用者も地域との交流が増してくるでしょう。住宅街の中のホームでないだけに、より地域住民との関わりを重視したいものです。町内会の老人会等との交流も期待しています。

家族との関係は、行事への参加も多いし家族会もある。また日常的に訪問が多く、とても良い状況ですから、「苦情」という形でなく、お互いのコミュニケーションの中から職員が問題点を見つけて勉強会で取り上げてみて下さい。ホームとして困っている事など相談してみるのも良いかも知れません。まだ、叩かれていない扉があるような気がします。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	<p>「このホームを選んで良かった」と利用者やその家族に思ってもらえるグループホームを目指している。その為「自立」と「尊厳」の2本柱を基本理念とし、「ここちよさ」を主軸にゆったり、のんびりした暮らしを願って日々邁進している様子がよく伺われた。</p> <p>この施設はグループホームだけで成り立っているのではなく、自治体と協働して「お年寄りや孫子が共に寄り添って暮らす」町づくりを目指そうとしている。従って、本来のグループホームの役割に加えて、地域密着型の認知症ケアの拠点としての使命を持ち、認知症の啓発や専門家の育成、指導にも努めている。今春新たなサービスとして介護保険の中で誕生した小規模多機能型居宅介護の試行に対しても、多くの示唆が頂けるのではないかと期待している。</p>		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	<p>まだまだ活用の将来性が見通せるような広い中庭(ふれあいテラス)やふれあい菜園は、街中の狭いグループホームでは考えられないくらいの贅沢な空間である。春や秋の良い季節には、ここで農作業や園芸活動が楽しめる。その喜びは利用者のお話の中で、また、家族などへの「よい通信」やアルバムから、しっかりと伝わってくる。今後、子育て支援に訪れる子供達や、近隣の元気老人達とのコミュニケーションの場として賑わうようになれば、より嬉しいことだろう。</p>		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	<p>「今までこうして土ひねりが出来て本当に有り難い事です」と嬉しそうに備前焼の作品を見せてくれる さんの笑顔が実に良い。熱中できることがある人は、特に、高齢者にとっては幸せだ。ホームで土ひねりをし、時々焼いてもらっていると。その方の得意な事をいかにしたい」と願う職員は、本人や家族から色々聞き出そうとしたり、試しに勤めてみたりするが、かって得意だったことも今はやりたくないと言う人もあり、全員が満足な状況という訳ではない。しかし、「自分で歩き自分で何でも出来る」といった身体的自立を目指しているだけでなく、「自ら考え、判断し、行動する」等の精神的自立も重視しているこのホームの2年先、3年先が楽しみです。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
	<p>「バカ、アホ、いじましい。こまったわ～、あれがないわ」「おいしい? おいしくない!!」等、反対言葉が多い」等、利用者の心的情景が手に取るように理解できる記録は、施設長へだけでなく職員間の情報共有となる。また意思表示が少なくなった時に役立つ資料となる。毎月1回、殆んど全職員が参加して開かれるこういった勉強会が、このホームの認知症ケアの要となっている。</p> <p>また、ヒヤリハットシートや事故、怪我報告書等、リスクマネジメントもサービスの質の向上を目指して、厳しい姿勢で対処している。一見マイナス面に思える事も家族会議にも報告して、家族、地域と共に協働して築いていくホームにして下さい。色々な意味で風通しの良いホームを目指す事が一番大切なことだと思います。</p>		